

## ■ OnAir 3000 ユーザーレポート

株式会社 TBS ラジオ & コミュニケーションズ 様

OnAir 3000



### 第5スタジオを OnAir 3000 で更新



株式会社 TBSラジオ&コミュニケーションズ  
技術推進室  
富永 晶豊

#### 第5スタジオ

第5スタジオは、主にCM制作や録音番組の収録で使用される録音スタジオです。同スタジオの放送設備は、1994年より稼動しており、今年度で16年目を迎え、設備老朽のため、7月に更新作業を行いました。

#### 音声卓の選定条件

音声卓の選定にあたり、第5スタジオは主にCM制作スタジオとして機能しているので、まずは、従来以上にCM制作が円滑に行えるような設備、そして、録音番組収録では、制作ス

タッフ1人での作業が主流となり、一方でCM制作は、ディレクターとミキサーでの2人体制であることから、いずれでも対応できるレイアウト設計を検討しました。そして何より、制作スタッフだけでも簡単に間違いなく音声卓を操作し、確実に収録ができる設備を目指しました。さらに技術的には、トラブルがなく、できるだけメンテナンス不要な音声卓とも考えました。

検討の結果、制作だけでも簡単に扱える操作性の良さ、また、技術が使用する際も過不足ない仕様であり、各局への導入実績をみても、安定性もあるということから、OnAir 3000を採用することにしました。すでに第1,2ダビングスタジオでOnAir 2000を導入していることから、制作者にとって、基本操作に慣れているということも要因のひとつになりました。

#### システム構成

音声卓の基本構成は、18フェーダーで、主にマイクフェーダーとして使用する1ブロック6本にのみロータリーモジュールを配置し、その他の2ブロックのフェーダーの上部スペースは、原稿などを置くフリースペースとしました。トークバック機能などのスタジオコミュニケーション部分は、OnAir 3000のTBモジュールでも構築可能でしたが、今回は、弊社の生スタジオと同様の

操作性、見た目でも分かりやすくするために、外部システムで構築しました。

また、CM制作用に、入力音声を検知し自動でカウンターが開始・停止する機能も備えた1/100秒表示ストップウォッチカウンターやCM編集・録音時に必要なProtocolsも導入しました。その他の周辺機器は、従来のDAF登録端末、MO録再機、CD、DAT、MD、TT、電話放送装置などを配備しました。また、MOは従来のコンソール型から機器ラックにマウントする形で配置し、できるだけスペースを広く取り、スタジオワークをしやすいようにレイアウトしました。

運用を開始して約2ヶ月経過していますが、CM制作スタッフからは高評価を得ており、音声卓トラブルも皆無で、制作・技術双方にとって、安心して使用できるスタジオとなっています。

